

## 近鉄電車 その7 ビスタカー（2階建車両）

前号まではチョット生臭いお話が続きましたが、日本一の近鉄は、技術的にも非常に優れているのでそのあたりのお話を！！（仕事柄、ご承知の事実があれば補足説明していただくとありがたく存じます）

もう今では、新幹線はじめ2階建電車は特別に珍しいものではなくなってきていますが、近鉄の車両を語る上で筆頭に上がるのが、2階建電車です。これは鉄チャンをひきつけただけでなく、当時としては世界最初のものでした。昭和33年、公共交通機関の整備が進むなか、夢のある電車として登場したのが『近鉄ビスタカー』です。『ビスタカー』は近鉄を代表する名称となり、現在まで引き継がれています。

初代のビスタカーは7両編成で、2階建てだけが売りでなくて、多くの新しい技術が導入されています。たとえば

運転台を高くして、視認性を高め、高速運転に対応できるようにしてした。

2階建て客室には、2階部分のガラスに当時まだ一般化していない『合せガラス』を採用して断熱効果をあげ居住性と冷房高架を向上させた。

座席も回転式として利便性を挙げた。

2階車両以外の車両には全て電動機をつけ、高牽引力、高速運転が出来るようにし、青山峠など乗り切れるようにした、などなど

このとき採用された、上半分がオレンジ色、下半分がブルーの配色は評判がよくて、子供の『のりもの絵本』の表紙を飾るようになったので、以降近鉄はこれを特急車両の標準色として採用し、現在まで定着している。



近鉄 初代ビスタカー



同 2階席

2階建て車両は、重心が高く、更なる高速運転には不向きなので、新幹線に対抗する特急『アーバンライナー』は2階建てを止め、通常車両とした、一方、観光地向きが主体の特急には、2階建てのビスタカーの採用を続け、現在ではすでに『ビスタカー 世』まで誕生している名車である。